

株式会社バロー 様

Hadoop活用によりバッチ処理時間を20分の1以下に削減し、
毎日の在庫状況を反映した効率的な発注を実現

「最終的に『Trusted Public S5』とHadoopの組み合わせに決定したのは、当社の実データを活用した検証結果を得たことが一番大きかったと思います。従来7時間かかっていた計算処理が、1時間以内で実現可能とのことで、Hadoopで間違いないと確信を得ることができました」

畑中 豊 氏

株式会社バロー 情報システム部 次長



課題

- 在庫数の計算に時間がかかり、タイムリーな発注ができていない
- 稼働時間は1日のうちのわずか1時間のみであり、オンプレミスでのサーバ導入は非効率
- 店舗数の増加など事業規模の拡大に合わせてスモールスタートで始めて、徐々にシステムを拡張していきたい

効果

- 基幹システムからクラウド上のHadoop環境に最新在庫データを送信。バッチ処理時間を15分に短縮し、前日の在庫が反映できるようになった
- 時間単位で利用できるTrusted Public S5で効率的な運用を実現
- クラウドを活用することで、システムを入れ替えることなく、柔軟でコストを抑えた拡張が可能

SaaS

PaaS

IaaS

DaaS

Network

プライベートクラウド

ソリューション

FUJITSU Cloud IaaS Trusted Public S5

クラウドを選んだ理由

Hadoopと組み合わせ、バッチ処理時間の大幅な短縮を実現

採用のポイント

高信頼・高性能なクラウド環境上での実際のデータを用いた検証結果で、高い処理性能を実感

概要

東海北陸を中心にスーパーマーケットなどを多店舗展開するバロー様では、店舗運営のローコスト化、競争力の強化を目指し発注の性能向上を検討。富士通の「FUJITSU Cloud IaaS Trusted Public S5 (以下、Trusted Public S5)」とHadoopを組み合わせ、基幹システムから店

舗在庫計算処理を切り出し、バッチ処理の高速化を実現した。前日の在庫を反映した性能の高い発注の仕組みができるとともに、時間単位でのクラウド利用で運用コストの削減が可能となったのである。

会社概要 株式会社バロー 様

所在地 | 〒507-8601

岐阜県多治見市大針町661-1

代表者 | 代表取締役社長 田代 正美

設立 | 1958年 (昭和33) 年

従業員数 | 19,362名 : 社員数 : 4,589名、

パート等: 14,773名 (2014年3月31日時点)

事業内容 | スーパーマーケット、ホームセンターおよびペットショップをチェーンストア経営に基づいて運営。グループとして、ドラッグストア、衣料服飾品販売店、スポーツクラブ等を経営

URL | <http://www.valor.co.jp/>

発注性能の向上により営業力を強化

同社ではインフラの強化により、今後の店舗増に対応できる体制を整えるとともに、店舗運営においても営業力の強化を目指している。その一つに発注の性能の向上があった。

「店舗運営では、商品の欠品や廃棄ロスが売上や利益の低減につながります。発注漏れを防止し、欠品による機会損失を削減するには発注性能の向上が欠かせません。一方で、店舗での作業に多くの時間が必要な中では、発注作業の効率化、ローコスト化も大きな課題でした。そこで求められていたのが、最新の在庫を反映した発注の仕組みを実現することだったのです」と、同社情報システム部次長の畑中豊氏は今回のプロジェクトの目的をそう語る。

従来、基幹システムで運用していた発注は、前日の在庫を反映したものではなかった。従来の仕組みでは計算処理が終わるまでに約7時間かかっていた。また、月末の棚卸のときには、さらにデータ量が増えるため、約24時間かかることもあり、実際の発注業務に活かせる状況ではなかった。そこで、現行の基幹システムから

店舗在庫計算処理だけを切り出し、「Trusted Public S5」とHadoopを組み合わせたシステムの検討を開始したのである。

「導入の大きな決め手になったのは、多くの国内ベンダーが1カ月単位での利用に限定されていたのに対し、「Trusted Public S5」は時間単位で利用できるという点でした。稼働時間は1日のうちのわずか1時間。そのためだけにコンピュータを自社で購入して動かすのは非常に効率が悪く、クラウドを利用するにしても時間単位の方がコストを抑えることができます」と畑中氏は語る。

スケジュールの自動化で、運用負荷が軽減

「最終的に『Trusted Public S5』とHadoopの組み合わせに決定したのは、富士通からのベンチマーク提案に従い、当社の実データを活用した検証結果を得たことが一番大きかったと思います。従来7時間かかっていた計算処理が、1時間以内で実現可能とのこと。それは強烈な印象でしたし、検証によってHadoopで間違いないと確信を得ることができました。現在は、ロジック見直しも合わせて実施し、当初比約

20分の1の15分で在庫計算処理が完了しています」（畑中氏）。

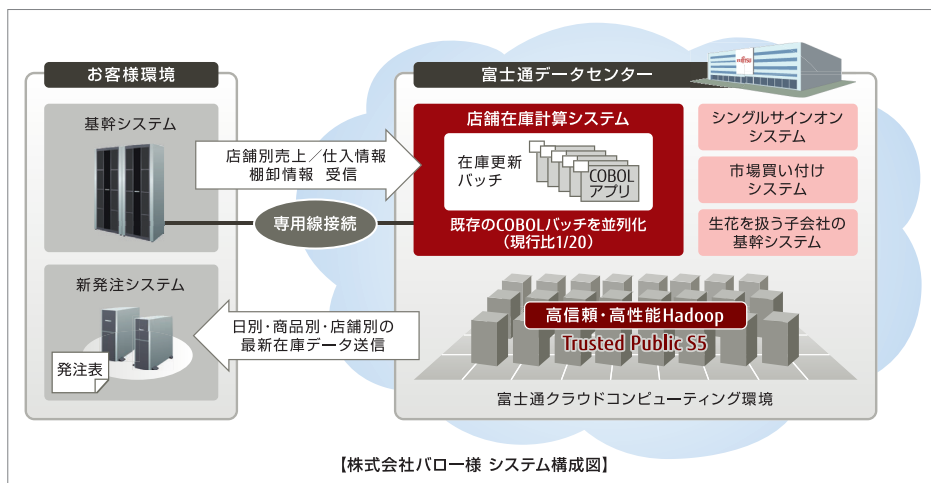
2013年4月から数店舗で運用を開始した新発注システムは、2013年12月には26店舗で稼働。徐々に運用する店舗数を増やし、最終的には全店舗での新発注システムの導入を目指している。本発注システムは、富士通が用意したHadoopやAPIを利用し、「Trusted Public S5」の利用スケジュールをコントロール。朝2時に起動し、6時頃にはすべての処理が終了するよう自動化している。まさにクラウドを時間単位で利用するという理想的な使い方を実現している。

クラウド活用で攻めの経営を推進

同社では今回のHadoopを活用した「Trusted Public S5」による基幹システムの切り出し以降、様々なシステムでクラウド化を推進している。2013年6月には、シングルサインオンシステムの「Trusted Public S5」への移行を実現。各種システムのログインに対しての認証をクラウドで行っている。

さらに、市場買い付けシステムや、生花を扱う子会社の基幹システムインフラに「Trusted Public S5」を選択。数週間から3カ月という短期での稼働を実現した。

「情報システム部としては、今後、ハードコストや運用コストの低減を目指しています。そのため、POSシステムにおける新アプリ基盤の開発や、基幹MDシステムの更新時にはクラウド基盤活用を考えていきたいと思っています」と畑中氏。現在、同社では韓国など海外でも店舗展開を行っている。「Trusted Public S5」は、これからは国内外で同社の店舗運営のローコスト化や営業力の強化を支えていく。



●記載されている内容については、改善などのため予告なしに変更する場合がありますのでご了承ください。(取材日：2013年12月)

SA1070 2014年7月 AP

製品・サービスについてのお問い合わせは

富士通コンタクトライン(総合窓口) **0120-933-200**
受付時間 9:00~17:30 (土・日・祝日・年末年始を除く)

富士通株式会社 〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター